

安野光雅が描いた御所の花展

華やぐ安らぎの場

天皇・皇后両陛下のお住まいを彩る草花を水彩画130点で紹介する「安野光雅が描いた御所の花展」が8日、京都高島屋で開幕する。画家の安野光雅は、2011年1月から1年余り御所の庭に通い、四季折々の植物を写生した。親交があり、一緒に島根県津和野町にある安野光雅美術館へ旅したことがある女優の檀ふみさんに寄稿してもらった。

四季折々に優しい眼差し

昨春から、花日記をつけている。そんなたいそうなものではない。その日に庭で目にした花の名前を記してゆく、ただそれだけのことである。ただそれだけのことながら、続けてゆくうちに、以前より、かなり花と近しくなったような気がしないではない。

たとえば今回、安野光雅さんの「御所の花」の絵のなかに、うちの庭にもある花を見つけると、なんだか我が子の出世した姿を見るようで、眩しく誇らしく感じてしまう。

数年前、いちごだけ御所に上が

女優 檀ふみ

ったことがある。夏の宵のことだった。

「いちごをご覧にいらたくて……」。美智子皇后が示された窓の外には、ユウスゲの花が、小さな明かりをたくさん灯したように揺れていた。「軽井沢から、陛下がお移しになられたの」

安野さんの「御所の花」には、もちろん、そのユウスゲも入っている。四季折々の花をスケッチするため、御所のお庭に通うこと、30回近かったという。

「私も、カバン持ちでお供したかった!」と、恨みがましく申し



檀ふみさんと安野光雅さん

上げると、かんからからと笑って安野さん。「これが、行きたがる人ほど、連れて行けないものなんだよねえ」

というのも、スケッチを続けているうちに、はっと気がついたのだそう。ここはプライベートな

空間なのだ。自分はそのお庭にお邪魔しているのだ……。たしかにそこは、平成の四半世紀を掛けて両陛下が自ら育まれた、安らぎの場なのである。

130もの花々を描かれた安野さん。ごひいきの花などあるのだろうか。こっそりと伺ってみると、「ホタルブクロ」とのお答え。「なかなか根付かないんだよ、あれは。うちにいっぱい咲いていたのに、かみさんが根こそぎにして、チューリップなんか植えてちゃって!」と。これはしかし、「安野家の花」のお話。

「御所の花」に対する安野さんの眼差しは、どこまでも優しく穏やかで、愛に満ちていた。



「ユウスゲ」



「エンプレスミチコ」



「ホタルブクロ」



「サンジュウチ」

あすから京都高島屋

■ 8日(金)～20日(日)、京都高島屋7階グランドホール(075・221・8811)。午前10時～午後8時(最終日は午後5時。入場は閉場の30分前まで)

■ 一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

主催 朝日新聞社
企画協力 津和野町立安野光雅美術館
※ 3月12日(金)～31日(日)、大阪高島屋(06・6631・1101)に巡回。

※ 本展図録(2千円)は、通販サービス「朝日イベント・プラス」(フリーダイヤル0120・013・193)、<http://shop.asahi.com/>で販売しています。

両陛下のお庭を彩る四季の草花

安野光雅が描いた「御所の花展」



- あす8日[水]→20日[月]
- 京都高島屋グランドホール〈7階〉

開場時間=午前10時～午後8時

※最終日1月20日[月]は午後5時閉場。(ご入場は閉場30分前まで)

入場料(税込)

一般800円(600円)、大学・高校生600円(400円)、
中学生以下無料

※()内は団体10名様以上の割引料金。

※当催については、「障害者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料とさせていただきます。

*トワイライトサービス=午後6時以降は当日料金の半額です。
(尚、その他の割引との併用はできません)

主催=朝日新聞社

企画協力=津和野町立安野光雅美術館

安野光雅先生サイン会

◎あす8日(水)午前11時・午後2時

会場にて図録・書籍をお買上げのお客様に、サイン会の整理券をお渡しいたします。
(各回70名様限り)

※都合により時間・内容が変更となる場合がございます。

バラ(プリンセスミチコ)



春

【ヤマボウシ】
わたしの田舎の、青野山の山裾に咲いておりました。昔から知っていたのに、名前は知りませんでした。植物の名前は誰がいいはじめたのか、どれもいい名前をもっています。



夏

【ユウスゲ】
名前のとおり、暮れてまわりが薄暗くなって何もみえなくなる境目に、明るい色の花が咲きます。つましいレモン色の花です。だから、花というよりも蛍の光のような気にもあります。



秋

【ヒツジグサ】
未の刻(午後二時ごろ)に咲くことからヒツジグサと呼ばれているのですが、それはおよその話で、きちんと二時に咲くということではありません。小さなスイレンで、紀宮さまのお印のお花だということです。



冬

【イイギリ】
背の高い木で、草むらに咲く花とはちがいます。赤い実はタヌキが好んで食べるそうです。イイギリの「イイ」はたぶん「飯」の字をあてるのではないのでしょうか。昔はこの木の葉でごはんを包んだと聞きました。